

2014年1月20日

報道関係各位

応用地質株式会社
応用アール・エム・エス株式会社

日本初、地震によるサプライチェーン被災の 事業中断リスク評価を実施

応用地質株式会社（東京都千代田区、社長：成田 賢）のグループ企業である応用アール・エム・エス株式会社（東京都港区、社長：山田 敏博）は、富士重工業株式会社（東京都新宿区、社長：吉永 泰之）の自動車製造部門であるスバルのサプライチェーンについて、被災に起因する事業中断リスクの確率的な定量評価を日本で初めて行いました。

2011年の東日本大震災および2012年のタイ洪水によりサプライチェーン被災による事業中断リスクが大きくクローズアップされています。

本プロジェクトは、従来の災害リスクモデルと詳細にモデル化された生産拠点間の依存関係を結びつけ、サプライチェーン被災に起因する事業中断リスクを分析したものです。クライアントの生産高とネットワーク間の依存関係を拠点毎のデータに変換して入力し、サプライチェーン全体の事業中断リスクを定量的に分析するという次世代の手法を用いた初めての取り組みです。

本サービスの特徴

応用アール・エム・エスと Risk Management Solutions（米国カリフォルニア、CEO：Hemant H. Shah、会社概要は後述）は、従来の災害リスクモデルを用いた各拠点の事業中断過程とサプライチェーン全体のネットワーク解析を結び付け、富士重工業のサプライチェーンが寸断されることにより連鎖的に発生するサプライチェーン全体の事業中断過程の分析を提供しました。

応用アール・エム・エスのクレイグ・ヴァン・アン 取締役のコメント

「既存のサプライチェーンネットワークの的確なモデル化が本プロジェクトを実行する上での基礎となりますが、本プロジェクトでは富士重工業の積極的な協力によりモデル化

OYO RMS

応用アール・エム・エス 株式会社

が可能となりました。また、応用アール・エム・エス社側も RMS のネットワークモデルへの入力データ構築のため、アナリストをサイトに派遣して、個別構造物その製造過程における接続特性の調査を行いました。応用アール・エム・エスと RMS は、この共同プロジェクトにおいて、確率的な災害リスク分析の適用範囲を拡大し、サプライチェーンや営業中断リスクに関する実践的な洞察をスバルに提供しています。」

モデル開発を担当した RMS のプーヤ・サラバンディ ディレクターのコメント

「本手法により、サプライチェーン被災による業務中断のリスク管理と、災害リスクモデルとを明確に結びつけることが可能となります。また、小規模な地域のネットワークはもちろん、本プロジェクトのような、工場、部品供給業者、流通業者が複数の国にまたがるグローバルな製造ネットワークまで分析可能です。分析結果は従来の RMS の災害モデルと同じ形式で出力されますので、現状のサプライチェーン被災による業務中断リスクの把握、リスク軽減・移転のための意思決定を強力にサポートします。」

<本件に関する問合せ>

応用地質株式会社 社長室 川地真人

TEL : 03-5577-4501(代)

応用アール・エム・エス株式会社 戸梶 武

TEL : 03-6434-9802 (直通)

以下参考資料

RMS 社について

RMS 社は 1988 年にスタンフォード大学で設立され、自然災害リスク評価モデル開発の先駆者として事業を展開してきました。最近では、テロ、パンデミック、LIFE リスク等も対象とした幅広い分野でモデルを開発・提供しています。RMS のモデルおよび各種関連サービスは、世界中の主要な保険会社・再保険会社・保険ブローカーにご活用されています。

応用アール・エム・エス株式会社について

1998 年に応用地質と RMS の合弁会社として設立されて以来、先端的な自然災害リスク分析サービスを日本国内の事業会社、不動産市場、金融機関、政府関係機関に提供しています。